

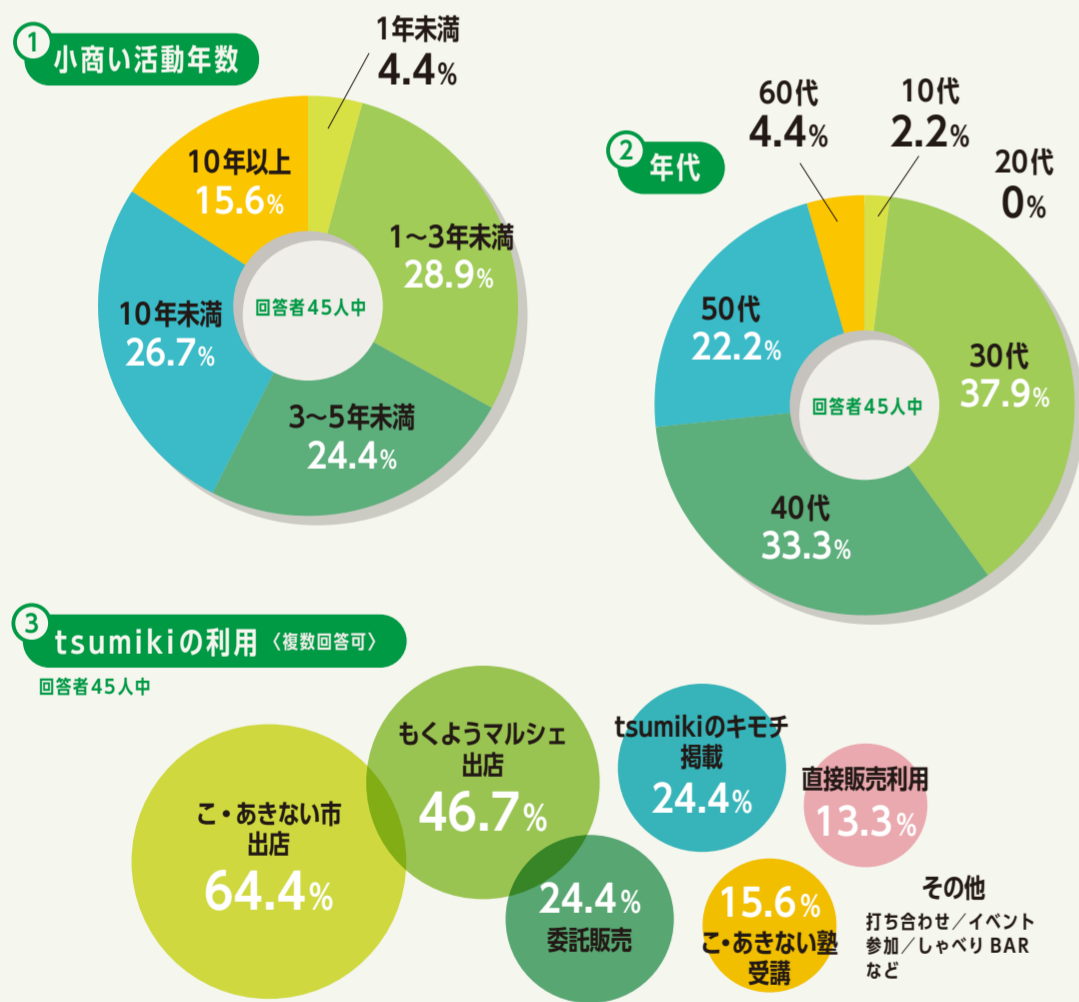
特集

新型コロナウイルスの影響

利府町のご・あきないの現状は

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、tsumikiは臨時休館からのスタートとなりました。さらに感染が広まり多くの人が集まるイベントの自粛・中止、飲食店の販売や営業時間が制限される事態となり、tsumikiの利用者がどのような状況に置かれているのか懸念されました。

そこで、ご・あきない市出店者、ご・あきない塾受講者、委託出品者、もくようマルシェ出店者など利用者100名余りに、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応に関するアンケート」を実施。45名から回答を得ました。集計結果をもとに、コロナ禍の影響を分析し今後の活動や仕事の仕方考えます。



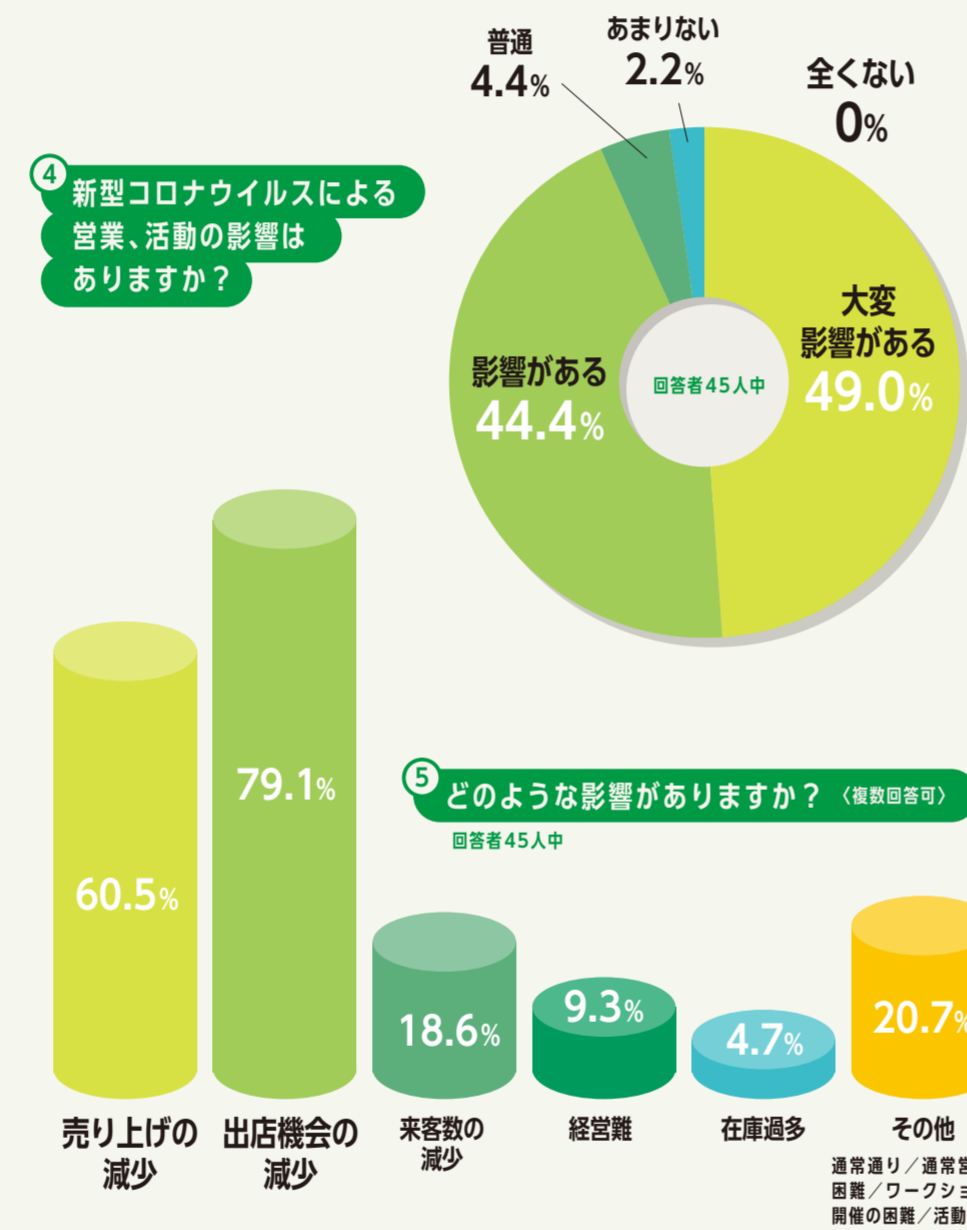
アンケートを実施しました

新型コロナウイルスの影響をどう乗り越えるか

コロナの影響を受けた自粛期間中、どのような対策をしてきたかの問いに対して、自由に記入してもらいました。コメントをみると積極的に危機をチャンスに転じようとした行動した方と、現状を静観し自己研鑽に努めた方に分かれました。

- ネット販売、オンラインショップへ転向
- 受注、注文販売に力を入れる
- テイクアウトへの変更
- 新たな委託販売先を探す
- この時期に需要が見込まれる商品へ変更する
- お店や商品のことや活動の様子などをwebを活用し情報発信を続ける
- 新作の企画・製作、定番商品の改良など作品づくりを続け、自粛解除後に備える

コロナ禍で始めた新たな取り組みとして **コロナ対策の事例** をいくつか紹介します。



3 持続可能な小商いのあり方を探る

非常事態になったときに、即座に新しい企画や事業に移すことは容易なことではありません。そのような時、これまでの販売実績やこれまでに築いてきたネットワークは、大きな支えになったようです。手探りながらも動き出すことで、次の展開へとつなげていく前向きな行動力と臨機応変な対応力は、小商いを持続可能にする原動力になりました。一方で、不足している販促物の制作に着手したり、スキルアップを図った

り、これまでの商いをじっくり振り返る時期と捉えていたことにも注目しています。ただ、ネット販売やオンラインワークショップなどに移行したくても、その方法が分からないため踏み切れない方も多くいて、新しい形態での販売方法や活動方法のサポートが求められてきます。これらを踏まえ、tsumikiに望まれることの一つは、新たなスタイルでの出店機会や場所、交流の場の提供です。今年度、例年開催している「ご・

あきない市」は、新たな試みとしてオンラインとオフラインの融合を掲げて開催します。利用者の方々とともに、新しい方法とその可能性を模索しながら実施になりますが、挑戦していきます。もう一つ、情報発信をサポートして欲しいという声が多く寄せられました。これに対しては、ホームページ内で「#tsumiki 応援団」企画を展開し、コロナ禍でも頑張っている様子やその活動を紹介してきました。

また、今年度はご・あきない塾を「新生業塾」と改め、小商い実践者を、地元企業や地域で活動する団体とつなぎ、新たな生業となる仕事づくりを支援していく企画が始まります。かつて経験したことのない事態に、まだ先の見えない不安はぬぐえませんが、でもこの時期だからこそいろいろな工夫とアイデアを出し合うことで、働き方の可能性が広がっていくのではないのでしょうか。

取材・文 葛西淳子

コロナ対策の事例 その① 焼き処 笑家 の場合

営業スタイルを変更、惣菜や弁当のテイクアウト、デリバリーを行う



JR利府駅前のりふレ横町に店舗を構える飲食店です。新型コロナの影響を受け、4月から夜の営業を休止し、お弁当やお惣菜を中心に、昼間のテイクアウトメニューを充実させました。外出自粛期間中には「お家で楽しく過ごしてもらいたい」という思いから、ピクニック用バスケットにお弁当(4～5人分)を入れて販売するなどの工夫をしました。

コロナ対策の事例 その② iiko iiko の場合

ガーゼハンカチ、スタイ等の布小物から、マスクの製作販売へ移行

コロナ感染予防のため需要の高いガーゼマスクの製作に切り替えました。販売は、今まで取引のなかったお店との委託を開始し、期間限定でマスクなどを納品しています。マスク需要が落ち着けば、もとの布小物を中心とした活動内容に戻し、お客様の要望に応じた物づくりをしていきたいです。



コロナ対策の事例 その③ 森の中のカフェ 生石庵 の場合

初めての試み、インターネットで行った受注販売



「外出がままならないお客様に、自宅で生石庵のコーヒーや焼き菓子を味わっていただきたい」と思いを込めてウェブ上で受注販売を始めました。イタリア・トスカナ地方の伝統的な焼き菓子「ビスコッティ」と相性抜群の直焙煎コーヒー「生石庵ブレンド」をギフトBOXにしました。今後も季節ごとに種類を変えて販売する予定です。

コロナ対策の事例 その④ Bagel & Bread spica の場合

仲間と一いっしょに、できることをできる範囲で行う「小さな販売会」

利府町にある小さなパン工房です。コロナ禍の状況が日に日に変わっていくなか、どんな状況でも対応できるように、日々やれることをコツコツとやってきました。そんな中でもお客様に少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたいと小さな販売会を行いました。密にならないよう、手指消毒、換気などにも気を付けながら、お客様にも協力してもらいながらの開催でした。



利府町のんびりまち歩き

食べて応援しよう!

おいしい飲食店めぐり

案内人 ● tsumikiライター 五十嵐千晶さん



レストランカフェ VER DURA

高台の住宅地にある隠れ家的なイタリアンレストラン。リーズナブルなコースメニューが人気です。お店自慢のアラカルトも楽しめます。ピザやオードブル(要予約)は、テイクアウト可能です。

利府町赤沼字大貝93-1
電話/022-767-5070
通常営業時間/11:00～15:00、17:00～20:30
※金土日の夜は要予約
定休日/木曜日

こけし庵

昭和4年に建てられた茅葺き屋根で趣がある建物。店内にはたくさんのこけしが飾られています。天ざるそば、鍋焼きうどんのほか、「とってなげ」と名付けられた利府名物料理も楽しめます。



利府町春日字新堀5
電話/022-356-2078
営業時間/11:00～20:00
(19:00ラストオーダー)
定休日/火曜日



レストラン らふらんす・2

和洋折衷のランチのお店。ハンバーグ、カレーなどはもちろんですが、魚料理が評判。毎朝新鮮なお魚を市場から直接仕入れて提供しています。料理は注文に応じて配達もしています。

利府町花園2丁目22-16
電話/022-356-9939
営業時間/11:30～14:00
定休日/日曜日

里山旬味 沢乙温泉うちみ旅館

「それぞれの特別な日に大切な人と」。山もみじに囲まれた景色の中、旬の素材を生かした日帰り会食プランをお楽しみください。6月からは、お持ち帰り懐石弁当(要予約)も用意しています。



利府町菅谷字明神沢1
電話/022-356-3145
HP/sawaoto-onsen.com
最新情報/Instagram・Facebookにて発信
休業日/水曜日



食事処伊達商店

宮城県内産の商品が並ぶ産直市場に併設されている食堂です。カレーライスやとんかつ、鶏唐揚げ定食など、ランチメニューが人気。値段もリーズナブルです。

利府町神谷沢字化粧坂49
電話/022-396-2161
営業時間/10:50～18:30
定休日/無

カフェレストラン ボナンザ

昭和59年創業の地元の洋食屋さん。カニピラフが自慢のメニューです。秋田県鹿角市産ポーク、岩手産チキンなど素材にもこだわっています。料理のお持ち帰りにも応じています。



利府町神谷沢字化粧坂77-7
電話/022-255-8082
営業時間/11:00～19:30
定休日/月曜日

1 アンケートから見てきたこと

回答者の小商いの活動年数(グラフ①)は、1年以上3年未満が3割と一番多く、tsumikiの設立から3年という年数に重なっていることが伺えます。活動エリアは、利府町内を中心に隣接する市町にわたり、年代をみると30～40歳代が7割。50代が2割と続きます(グラフ②)。製作や販売物、活動内容は多様で、個々に特色を出したもののづくりに挑戦しています。

tsumikiの利用の仕方(グラフ③)も様々な、tsumikiを中心に開催される販売の場を有効に活用し活動の幅を広げているようでした。注目したいのは、新型コロナウイルスによる影響です。9割を超える方々がなんらかの影響を受けていることが明らかになっています(グラフ④)。なかでも、売上の減少、出店機会の減少が顕著に表れていることが分かりました(グラフ⑤)。

とふ 十 の 里 び と

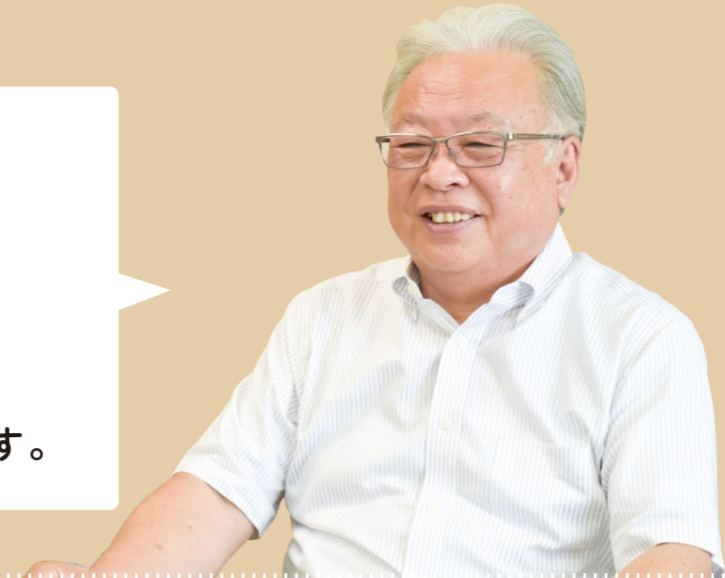
12人目

-お名前

あかま のぶひろ
赤間信博さん (65歳)

-なにをしているひとですか？

利府町の、にぎわい仕掛け人
株式会社まちづくり利府の社長です。



JR東北本線利府駅のすぐ隣にある駅前屋台「りふレ横丁」。海鮮料理、肉料理、おでんなど、それぞれの看板商品を掲げた飲食店が軒を連ねる屋台村です。このりふレ横丁を設立時から管理運営するのは、株式会社まちづくり利府です。利府町生涯学習センター内にある事務所へ代表取締役社長の赤間信博さんを訪ね、りふレ横丁やその他の事業などについて伺いました。

利府から元気を発信したい。
町の玄関口である駅前を盛り上げたい。

利府に生まれ育てられ 利府を育てる

赤間信博さんは、利府で生まれ育ち、高校を卒業すると利府町役場に就職しました。町の職員時代は、企画部門や政策部門などで利府町の活性化事業に長く尽力しました。2017年に役場を退職すると、株式会社まちづくり利府に入社。奇しくも町の職員時代に携ったまちづくりを、今度は民間側から継続することになりました。そして、入社後の翌2018年、三代目社長に就任しました。

「まちづくりの総仕上げという役割をいただいたと思っています」と赤間さんは語ります。官民両方の立場を経験することで、行政職員だった当時は見えなかった部分に気付くこともあります。その視点は、積極的に現役の町職員に率直に伝えるそうです。両方向からの働きかけが町の活性化につながるからです。

株式会社まちづくり利府の主な事業は、利府駅横の駅前屋台「りふレ横丁」の管理運営、東口町営駐車場の管理、三陸自動車道むすび丸春日パーキングエリア(上下線)の直売所管理、楽天二軍イヌワジサポーターズボランティア事務局などです。

利府のまちづくりを担う 民間会社の誕生

1984年頃から始まった利府町中央地区の区画整備事業は1999年に完了し、町の玄関口となるJR利府駅前の整備が整いました。整備が進む中で、駅前にスーパーマーケットを誘致するなどの活性化策

も検討されましたが、2000年に大規模商業施設イオンモール利府(当時はジャスコ利府店)が利府街道沿いにオープン。すると、その周辺に次々と商業施設が出店し、人々のニーズは郊外型商業施設へと移っていきました。

人々の足が郊外型商業施設に向かう中、町民同士のコミュニケーションの場を増やす活動や生活利便性向上など、さらなるまちづくりを担うべく、まちづくりの経験者や興味のある人たちが結集し、中心市街地の活性化事業に取り組む組織として「株式会社まちづくり利府」が2006年6月に設立されたのでした。

にぎわいの場をつくらう 「りふレ横丁」

2008年には、利府駅前に屋台村風の飲食店街「りふレ横丁」が完成。当初は6店舗でスタートしましたが、お店の入れ替わりもありましたが、現在は7店舗が営業しています。1軒毎のスペースは、6坪前後と小さいですが、その分お客さんと店主のコミュニケーションが取りやすく、



またお客さん同士のコミュニケーションも気軽に生まれる距離なのだそう。

2018年に開業10周年を迎え、その記念に中央部に屋根をかけ、テーブルと椅子を設置し外で飲食できるスペースを作りました。お天気が悪い時でも大丈夫なので便利です。また、去年は3回にわたって「ビール祭」を開催。初回は60名ほど、2回目以降は120名を超える方が来場する盛況ぶりでした。今年も楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス流行の影響で、ビ

願い亀
素通りしている
と気づかないかも…
どこにあるのか探してみ
てください。願い事が叶うかも。

ル祭は見送る予定です。

実は、このりふレ横丁には、縁起の良いスポットがあります。それは、ゆっくりゆったりリフレッシュできる横丁のシンボル「願い亀」です。「縁起良い亀にあやかって、コロナ禍も吹き飛ばしてくれるはず」と赤間さんは願っています。「一部だけが盛り上がっているだけでは、活性化とはいえない。みんなで盛り上がることで活性化が実現できるのですよ。しばらくは新型コロナウイルスの流行の様子を見ながら地域の賑わいにつながる取り組みを続けていきたい」と赤間さんはまだまだこれからと将来の展開を見据えています。

取材・文 五十嵐千晶

-お店の情報 株式会社まちづくり利府

- 利府町中央二丁目11番地1 利府町生涯学習センター内
- ☎ 022-767-1053
- ✉ tmo-info@rifu-tmo.jp
- 🌐 http://www.rifu-tmo.jp



コンパクトな店内



野外スペースはこんな使い方も!

利府町で活躍する事業家を毎号紹介していきます

十符(とふ)とは? ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スグ)草が自生し、「菅藪(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅藪の編み目が10編あることから「十符の菅藪」と呼ばれ、みちのく「歌杖」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)、符が府に変わったと言われています。

tsumiki TOPIC



つみきの本棚から、お薦めの書籍を紹介します。tsumikiスタッフが企画・編集し2020年3月に発行したばかりの書籍とフリーペーパーです。館内で読むことができますので、ぜひ手に取ってみてください。

tsumiki book 2016-2020
利府町まち・ひと・しごと
創造ステーションの取り組み



なりわい
新・生業をつくる
ゆるやかなネットワークから
生まれるイノベーション

編者 一般社団法人Granny Rideto
発行 利府町(政策課政策班)

2016年、町民参加のワークショップを重ねて誕生したtsumiki。これまで、ビジネス、市民活動など様々な分野で関わってくれた方は111名にもなりました。本書は、その3年間の軌跡がまとめられています。

第1章は、定期的開催されている「こ・あきない塾」「こ・あきない市」の歩み。こ・あきない塾は、町の地域資源を活かした小商いによる起業・創業を支援するための連続セミナー。そこから実際に出店し、新たな価値や人とのつながりが生まれるこ・あきない市。この2つの「こ・あきない」を通して、生き生きとチャレンジし続けている方々の実践例が掲載されています。

第2章では、利府町で活躍している方々27人にインタビューしました。チャレンジするきっかけ、実行してみて大変だったこと、嬉しかったこと、これからの展望などが語られています。この章の企画・編集と執筆は、おもに「tsumikiライター塾」で学んだ町民ライターが担当。取材を通して新たに知ったこと、再確認した地域の魅力を町民自ら発信することができました。

第3章は、まちの資源。当たり前風景も見方を変えると新しい発見があります。tsumikiが見つけた様々なキーワードをととして地域資源を紹介しています。持続可能な新たな生業「新・生業」づくりへチャレンジするtsumikiの取り組みが、この一冊に詰まっています。

スモールビジネスをはじめたい あなたへ

こあきない 小商いハンドブック

編者 一般社団法人Granny Rideto
発行 利府町(政策課政策班)



ここ数年、小商いに興味があるという方が増えています。小商いとは、思いを優先させたものづくりを身の丈サイズで行い、顔の見えるお客さんに商品を直接手渡し、地域の小さな経済圏を活かしていく商いのことです。やってみたくとも、はじめるにあたり様々な不安があると思います。その不安を取り除けるよう、イラスト付きのハンドブックをつくりました。

はじめに、小商いの実践者に取材をしています。始めるきっかけ、コンセプトや思いなどを生き生きと話してくださいました。皆さん意識が高く、一つひとつ参考になるメッセージが載っています。

中面は、小商いのステップを4つに分け、解かりやすく説明してあります。「イメージしよう」→「準備しよう」→「出店しよう」→「ふりかえろう」と、ステップごとに具体的なポイントとアドバイスがあります。「思いを整理するシート」「準備するものリスト」「ふりかえりチェックリスト」なども用意。

ぜひ、このハンドブックを活用して「小商い」にチャレンジしてみてください。

tsumikiライター 櫻井陽子

tsumiki INFORMATION

2020



8/22(土) 11:00-14:30

こ・あきない市 2020 夏

今回は、ウッドデッキでの対面販売とオンラインを使ったワークショップの2本立て。コロナ禍に負けない新しいスタイルの「こ・あきない市」をお楽しみください。



●ウッドデッキで「こ・あきない市」
おなじみの出店者が、パンや焼き菓子、コーヒーなどを販売するほか、利府町の新鮮な野菜や梨梨を使ったスパイスカレー等利府こだわりの一品が並びます。



●おうちで「こ・あきない市」
利府町や周辺地域には様々な活動を通し、モノや町の魅力を伝えていく方がたくさんいます。そんな出店者さんと会話をしながら、ものづくりの楽しさを体験することができます。ご自宅や全国どこからでも、スマホやパソコンから気軽に参加できます。

2020年10～11月開催

新・生業(なりわい)塾

利府の地域資源を活かした、新しい生業(なりわい)づくりにチャレンジします。全5回の連続講座のあと、県内で活躍しているゲストを交えて受講者による報告会を行います。起業したい方、新規事業開発を考えている方、小商いの実践者の方々にオススメです。



※講座報告会は、状況に応じてオンラインでの開催を予定しています。
※詳しくは、ホームページなどでお知らせします。

各種イベント・講座のお申し込み

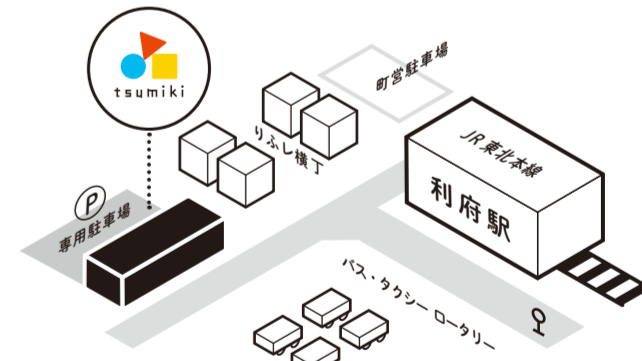
[TEL] 022-766-9231 [E-mail] info@rifu-tsumiki.jp
お名前(ふりがな)・住所・電話番号・メールアドレスをお知らせください。



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(秘書政策室 政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。秘書政策室政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto(エスペラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいはやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
<tsumiki>で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.12 発行日●2020年8月5日 発行●利府町
企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・焼生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊藤谷美貴(intergire)